

大阪における統合型リゾート(IR)立地に向けて ～基本コンセプト素案～ (概要版)

資料3

I 背景

大阪・日本の現状

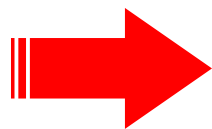
- ◆長期にわたる経済低迷による閉塞感
- ◆アジアにおける観光ブーム、ツーリズム人口の拡大
- ◆しのぎを削る都市間競争の中、急がれる都市魅力の向上

国の動き

- 新しい観光アイテムとして“IR”に注目
 - ◆国土交通省成長戦略会議報告書
 - ◆行政刷新会議
 - ◆国際観光産業振興議員連盟
- ※特別立法の大綱案

大阪のホ・テソシヤル

- ◆立地 (関西圏人口2千万以上、人気観光スポット隣接)
- ◆アクセス (海外の玄関口、鉄道網の充実)
- ◆情報創造・交流機能の集積 (大学、研究所、ホテルなど)



観光立国を目指すわが国では・・・

- ◆政府は、成長を支える大都市に政策と投資を集中
- ◆地域は、その持ち味を活かしたグローバルな魅力づくりを推進 すべき

Ⅱ 国際エンターテイメント都市・大阪の創出に向けて

課題

国内外の人々にとって、そこへ訪問すること自体が目的となる
“ 観光資源の開発・創造 ”

↳ **大阪のさらなる成長の起爆剤として期待される“IR”**

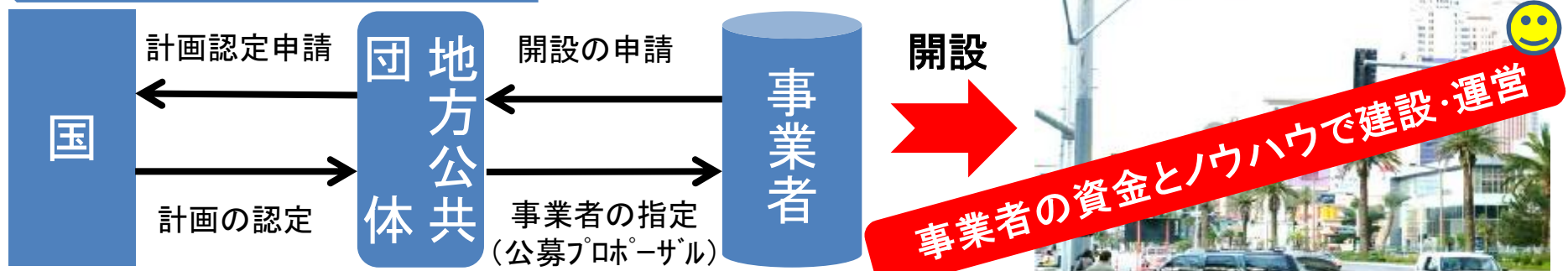
効果

国際エンターテイメント都市・大阪のシンボルとなる他地域を圧倒する魅力の創出

関西圏の様々な魅力とのシナジー効果による集客力アップ

海外からの投資を呼び込むことによる地域経済の活性化
(大きな経済雇用効果)

【想定されるIR開設の流れ】



※「IR」とは: *Integrated Resort* (統合型リゾート)の略。一般的に、会議・展示施設、ホテル、ショッピングモール、レストラン、劇場、アミューズメントパーク、カジノ等が一体となった複合観光集客施設と定義されることが多い。

Ⅲ-1 大阪における“IR”とは？

【3つの目標、7つの視点】

①
国際エンターテイメント都市・大阪の新しいランドマーク(アイコン)の創造

②
世界第一級のMICE機能の創出

③
関西固有で世界に通用するエンターテイメント空間・サービスの創出

◆大阪・関西が有する世界的な観光資源とのコラボレーションによる、新たな滞在型観光スタイルの確立や関西全体への経済効果の波及

◆観光客からビジネス客まで、誰もが楽しめる世界最高水準の“エンターテイメント機能”の創出

◆東アジアにおける情報創造発信拠点となる“MICE”機能の創出

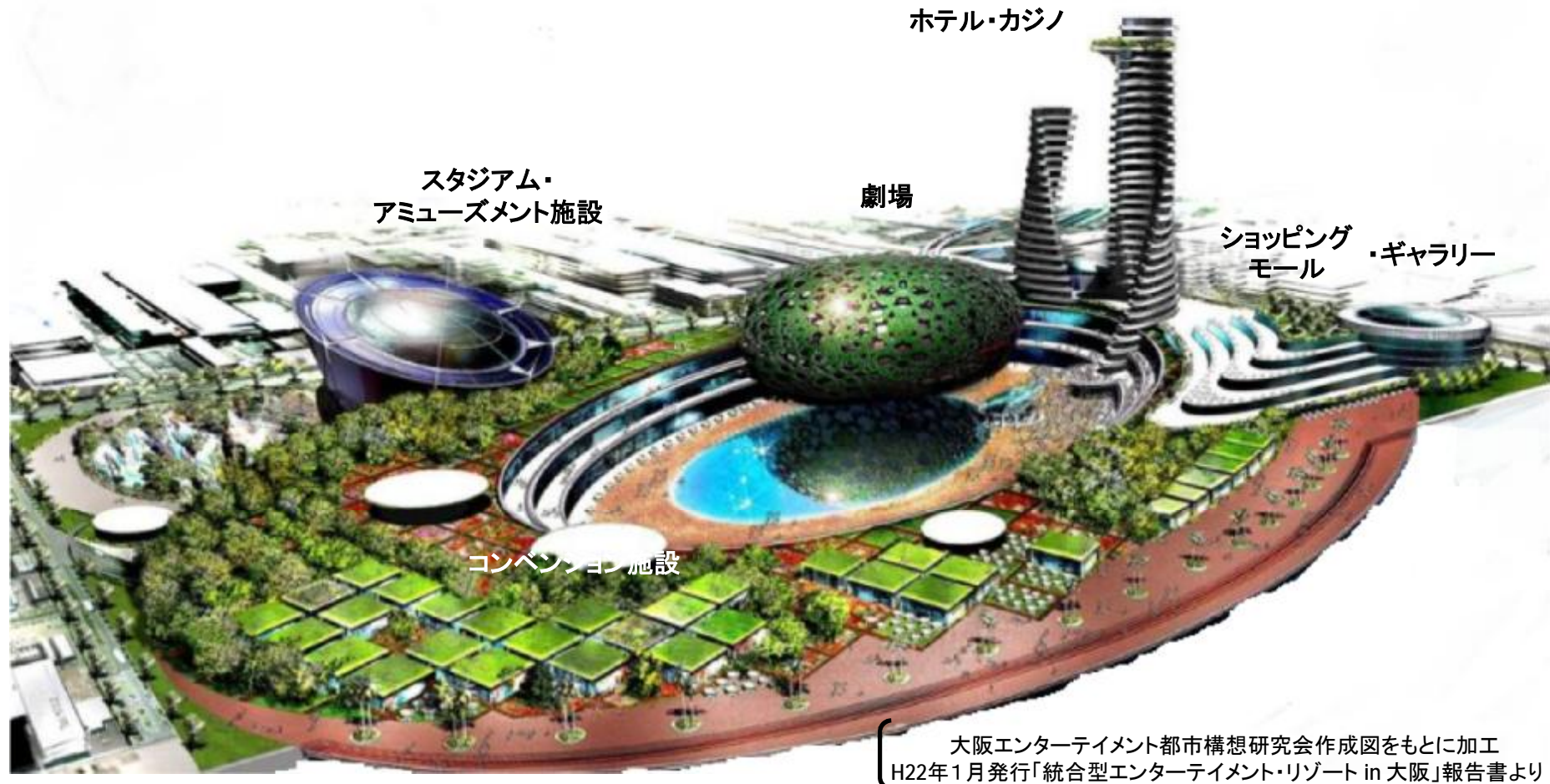
④
ゲーミング(カジノ)に対する一定制限

⑦
地域のパートナーとしての活動(セーフティネット対策と地域貢献活動)

⑥
環境・新エネルギーなど世界の最新技術を駆使、防災等多面的な付加価値の提供

⑤
大阪・関西の歴史文化観光資源とのコラボレーション

Ⅲ-2 “IR” イメージ



概要

【建設・運営主体】：民間事業者

【機能】：世界最高水準のエンターテイメント、MICE、カジノ等で構成、非日常空間の演出

【立地場所】：都心から主要交通機関で30分以内、かつ、国際空港から60分以内

【規模】：敷地面積：8～30ha程度 ※事業者へのヒアリング調査結果より

IV IR立地に向けたセーフティネットの構築と地域貢献活動

セーフティネットの構築

(1) 犯罪・不正防止対策

- ◆カジノに係る審査・監視の専門機関の設置
- ◆事業者の身元確認の徹底
- ◆施設運営状況の監視
- ◆違法・不正行為等への厳しい罰則
- ◆従業員教育の徹底

(2) 青少年対策

- ◆カジノ場への未成年者の立入禁止
- ◆カジノ施設設置場所の制限
- ◆カジノプロモーションの一部規制

(3) 依存症対策

- ◆依存症患者のカジノ場への立入禁止
- ◆入場回数、掛け金等の上限設定
- ◆カジノ場内でのATM設置や金銭等の貸付の制限
- ◆啓発・相談事業の充実
- ◆従業員教育の義務付け
- ◆医療・教育分野での研究や対策に要する資金供与等
- ◆依存症対策に取り組むNPOとの連携

地域貢献活動

- ◆事業者による地元のコミュニティ活動への支援
- ◆シアター等への地元住民の招待や地元イベント開催時の施設開放
- ◆事業者と地元との連絡協議会の実施
- ◆事業者によるボランティア活動